

みどりのこえ

春号
2010



No.40

長野県環境保全研究所

平成22年(2010年)3月25日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/> E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp



阿蘇外輪山の火入れ。約1万年前からつづいてきたとされ、その結果、氷期に大陸から移入した草原性の植物や昆虫がここに生き残ってきた。

生物多様性と文化

文・写真 湯本 貴和

わたしたちの住む日本列島は、地球上に34ヶ所ある生物多様性のホットスポットのひとつとされています。ホットスポットは全地表面積の2.3%を占めるに過ぎませんが、ほ乳類・鳥類・両生類の75%の種が生息し、維管束植物の50%と陸上脊椎動物の42%がこれらのホットスポットにのみ生息していることが知られています。日本列島は南北に長く、幅広い気候帯にまたがっていて、しかも豊かな降水量に恵まれています。また、過去の気候変動下でアジア大陸と陸続きになったり離れたりするなかで生物相が独自の進化を遂げたこと、さらに今から2万年あまり前の最終氷期最盛期にも氷河で覆われず、さまざまな生物が絶滅を免れたことといった理由が挙げられます。

しかし、日本列島が他のホットスポットと大きく異なる点は、先史時代から一貫して人口密度が高く、人間の自然への関与が大きかったにも拘らず、大型ほ乳類や固有の植物・淡水魚などがたくさん生き残っているということです。このことは日本の前近代では人々が自然を

持続的に利用してきた証拠であるとして、この列島で自然と人間が穏やかに共生してきたという「里山論」の根拠ともされてきました。たしかにカミの怒りを畏怖して獣や魚を欲張って採りすぎることを戒め、自然の恵みに感謝してキノコや山菜を採り尽くさないためのさまざまな言い伝えや作法がありました。その一方で、幕末から明治・大正・昭和初期にかけて、多くの山林で過度の薪炭利用や草地利用があつて禿げ山が広がり、沿岸域では漁業が乱獲を極めていたことも、また事実なのです。

どこの国や地域でも、文化はそれぞれの地域の生物多様性に依存して育まれたものです。生物の生息地や行動に関する深い伝統的な知識は、持続的な利用を導くこともあるし、根こそぎ採り尽くす収奪を導くこともあります。今年、生物多様性条約締約国会議が名古屋で開催されます。この機会にもう一度、日本の文化と生物多様性について考えてみたいものです。

(ゆもと たかかず / 総合地球環境学研究所 教授)

Contents

【巻頭言】 生物多様性と文化	1	地球温暖化と生物多様性	8
【特集】 生物多様性と信州 ～自然の恵み その源を見つめなおす～	2	自然体験と生物多様性	9
信州の植物の多様性	3	【こんなことやってるよ!】活動紹介 長野ソフトエネルギー資料室	10
信州の動物の多様性	4	【こんな本みつけた!】『絶滅した日本のオオカミ』	10
地形・地質・景観と生物多様性	6	【フィールドノートから】ハチクマ研究集会・日本哺乳類学会	11
里山の恵みと生物多様性	7	ご案内 平成22年度『自然ふれあい講座』	12